

第5学年 外国語科学習指導案

日 時
指導者
場 所

1 単元名 あこがれの人を紹介しよう
(参照：Junior Sunshine 5 Unit6 My Hero)

2 単元について

○児童観

外国語の授業を楽しみにしている児童が多く、新しい表現に出会うと興味をもち、歌やチャンツ等で慣れ親しみ、言いよどむことはあっても意欲的に使おうとする様子が見られる。しかし、既習表現であっても次の単元になると会話に出てくる回数が極端に下がるなど、定着に課題が残る。そこで、適宜Small talk を取り入れ、既習表現を繰り返し使う場面を増やしてきたことで、少しずつではあるが、会話で扱う英語表現に広がりが見られるようになってきている。また、5年生になって新たに書く活動が増えたことで、積極的に四線上に書きたいという様子も見られるようになってきた。

○教材観

本単元では、自分のあこがれる人を題材に、第三者についてできることを中心に紹介する。自分と話し相手についての会話为主体だったが、第三者のことについて紹介できるようになり、表現の幅が広がる。また、自分があこがれる人や身の回りの頑張っている人について紹介し合うことで、いろいろな人のよさを知ったり、自分も頑張ろうという気持ちを持ったりすることが期待できる。

○指導観

単元終末の言語活動として、自分のあこがれる人を友達に紹介する活動を行う。それにあわせて、紹介するためのポスター作りやスピーチメモを書く活動を取り入れる。ポスターに表すことで伝えやすくなったり、メモに残しておくことで4文程度のスピーチ内容でも内容を確認しながら話す練習ができたりするなど、書くことのよさを味わわせたい。また、発表の際には自分のこともよく知ってもらうために、あこがれの人に対しての思いやそこに近づくために自分が頑張っていることなどについて、日本語で話す部分を取り入れることで相互理解を深めたいと考えている。

3 単元の目標

自分のことをよく知ってもらうために、自分のあこがれの人について、伝えようとする内容を整理した上で紹介することができる。また、自分のあこがれの人について発表する内容を、例文を参考に、慣れ親しんだ表現や簡単な語句を用いて書くことができる。

4 該当する学習指導要領における領域別目標

聞くこと	イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。
話すこと (発表)	ウ 身近な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
書くこと	イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

※「聞くこと」については、目標に向けて指導は行うが、記録に残す評価は行わない。

5 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと (発表)	〈知識〉 He/She is~. He/She can ~.など 第三者のことを伝える表現について理解している。 〈技能〉 できることなど、第三者のことを伝えるために必要なことについて、話す技能を身に付けている。	自分のことをよく知ってもらうために、自分のあこがれの人について、あこがれる理由や近づくために努力していることなどを含めて話している。	自分のことをよく知ってもらうために、自分のあこがれの人について、あこがれる理由や近づくために努力していることなどを含めて話そうとしている。

書くこと	〈知識〉 He/She is~. He/She can ~.など 第三者のことを伝える表現について理解している。 〈技能〉 できることなど第三者のことを伝えるために必要なことについて、書く技能を身に付けている。	自分のことをよく知ってもらうために、自分のあこがれの人について、例文を参考に、慣れ親しんだ表現や簡単な語句を用いて書いている。	本単元では評価しない。
------	---	---	-------------

6 単元の指導と評価の計画（全6時間）

時	目標（◆）と主な活動（○）	評 価			
		知技	思判表	態度	評価方法
1	◆あこがれの人についての話を聞いて、おおよその内容を理解できる。 ○Small talk ○指導者の話から、あこがれの人について紹介するという見通しをもつ。 ○チェンゲーム ○振り返り				本時では、記録に残す評価は行わない。
2	◆第三者のできることについて聞き取ることができる。 ○チャンツ ○チェンゲーム ○【Let's listen 2】 p.48 ○【Let's play 2】 p.49 ○Who am I クイズ ○振り返り				本時では、記録に残す評価は行わない。
3	◆できることについてたずねたり、他の相手に紹介したりすることができる。 ○Small talk ○チャンツ ○キーワードゲーム ○チェンゲーム ○【Let's play 5】 p.52 ○振り返り			発	行動観察・振り返りシート
4	◆大文字で書き始める単語のルールを知るとともに、自分のあこがれの人についてのポスターを作ることができる。 ○チャンツ ○チェンゲーム ○アルファベットマッチングゲーム ○【文字に慣れよう】 p. 96 ○あこがれの人の写真に名前や職業、競技名（スポーツ選手の場合）などを書き加えてポスターを作成する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">タブレットPC活用</div>			書	ワークシート点検
5 (本時)	◆自分のことをよく知ってもらうために、例文を参考に、自分のあこがれの人についてのスピーチ用のメモを作成することができる。 ○Small talk ○チェンゲーム ○Who am I クイズ ○自分のあこがれの人について、例文を参考に紹介する内容を考え、メモを書く。 ・その人物にあこがれる理由や近づくために努力していることなどについて日本語で話す内容を添える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">タブレットPC活用</div> ○ペアで練習する。 ○振り返り			書	ワークシート記述

6	◆自分のことをよく知ってもらうために、あこがれの人について、自分が頑張っていることなどを含めて話すことができる。			
	○メモに書いた、あこがれの人の紹介文について、ペアで練習する。 ○グループになり自分のあこがれの人について発表する。 ○振り返り		発 発	行動観察・振り返りシート

7 「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標（第5学年）

聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと
・はっきりと聞き取りやすいスピードで何度か話されれば、その内容を聞き取ることができる。	・身近な単語のはじめの音を聞き分け、文字を識別して読もうとしている。	・既習の表現を多く用いて相手に伝えたい内容を伝えたり、相手の伝えたい内容を理解することができる。	・既習の表現を用いてクイズやゲーム等に反応したり答えたりすることができる。	・活字体の大文字を丁寧に書いたり、ヘボン式ローマ字で自分の名前を丁寧に書いたりすることができる。

8 本時の活動（第5時）

(1) 目 標 自分のことをよく知ってもらうために、例文を参考に、自分のあこがれの人についてのスピーチ用のメモを作成することができる。

(2) 展 開

時間	児童の活動	指導者の活動		指導上の留意点 ◎評価規準〈評価方法〉
		HRT	ALT	
2分	挨拶をする。	全体に挨拶をする。		英語で挨拶し、楽しい授業の雰囲気を作る。
5分	Small talkをする。	「家族のできること」について話し、モデルを示す。		既習表現を活用しながら、考えや気持ちを伝え合えるように支援する。
3分	本時のめあてをつかむ。	本時のねらいを告げる。		
あこがれの人についてのスピーチメモを書こう。				
7分	チェンゲームをする。	児童の活動をサポートする。	英語のモデルを示す。	ゲームを楽しみながらHe/She can ~.の表現に慣れるようにする。
7分	Who am I クイズをする。	有名なスポーツ選手や歌手などをテーマにクイズをすることを伝える。	クイズを出題する。	できることを中心にクイズを出すことで、紹介文に書くことの手がかりとなるようにする。
10分	例文を参考に、自分のあこがれの人についてのスピーチ用のメモを作成する。 ・その人物にあこがれる理由や近づくために努力していることなどについて日本語で話す内容を添えることで、自分のことについてもっと知ってもらえるようなスピーチ内容になるようにする。	ワークシートの例文を児童と共に読んで内容を確認し、例文を参考に自分のメモを書くモデルを示す。	個に応じて必要な支援をする。	タブレット ◎自分のことをよく知ってもらうために、あこがれの人についてのスピーチメモを、例文を参考に作成している。〈行動観察・ワークシート記述分析〉
5分	ペアで練習する。	個に応じた支援をする。		

5分	本時の活動を振り返る。	振り返りの観点を示し、感想を聞く。	本時の活動についてよかったことや感想を話す。	次時での発表会への意欲が高まるような声かけをする。
1分	挨拶をする。	全体に挨拶をする。		

(3) 評価及び指導の例

「書くことの思考・判断・表現」

「十分満足できる」と判断される状況(a)	例文や参考に、自分なりに考えた発表内容について He/ She is ~. He/She can ~ . の表現を用いて四線上に書いている。
「おおむね満足できる」状況(b)を実現するための具体的な指導	使用表現について、クイズ等で繰り返し聞かせたり、記述の際には例文やイラストカードを手本にしながら書かせたりする等の指導や支援を行い学習改善につなげる。
「努力を要する」状況(c)と判断した児童への事後指導	例文を一単語ずつ丁寧に読み、四線上に書く場所を示しながら書くことができるよう支援する。